

令和七年度 一学期 終業式 式辞

今日で1学期が終わります。みなさん、この1学期を振り返って、一生懸命、後悔なく生きてきましたか？

6月には3年生にとって最後となる、高校総体と総文がありました。自分の持てる力をすべて発揮することはできたでしょうか？結果の良し悪しはあったと思いますが、高校に入学してから、2年半努力してきた過程は、みなさんの今後の人生において、大きな財産となります。是非、前を向いて進んでください。

今週月曜日7月14日には、高校野球の全校応援がありました。試合に勝つことはできませんでしたが、全校生徒が一丸となって応援した体験は、みなさんの一生の想い出となることでしょう。来年度は創立80周年を迎えます。本校単独での出場は厳しい状況ですが、合同チームに対しても、この全校応援は続けてほしいと願っています。

さて、今日はみなさんに「面倒くさい」という言葉と感情について考えてほしいと思います。

「面倒」という言葉の意味は非常にわざらわしいという意味で、強調を示す「くさい」を付け加えることで、「何かをする時にわざらわしく感じる状態」を示し、手間や困難さを考えて気が進まず、心が後ろ向きであるといえます。私も含め、みなさんもついつい「面倒くさい」とつぶやくことがありますか。

みなさんもよく知る、ジブリ映画の宮崎駿監督は、あるインタビューで次のように答えました。「大事なことは、だいたい面倒くさい」映画の中で、「こんな細かいところまで観る人が何人いるんだろう」「そんな事に気付く人がどのくらいいるんだろう」 そういった細部にまでこだわり続けていた宮崎監督ならではの言葉です。

そこで、これからみなさんが「面倒くさい」と感じた時に、「面倒くさいからやらないでおこう」「面倒くさいから明日やろう」「面倒くさいから人に任せよう」と考えるのではなく、「おお面倒くさいことが出てきたぞ、これを今すぐやれば気持ちいいだろうなあ」「面倒くさい頼みをされたぞ、よしこれは自分を成長させるチャンスだ」と考えることにすればどうでしょうか。きっと、最初はそんなに簡単に上手くはいかないかもしれません、それを続けていくと、もしかしたら何度もかの「面倒くさい」に出会ったときに、「やったあ、面倒くさいことが自分に降りかかってきたぞ。ラッキーだ。これをどうやって乗り越えてやろうか」とワクワクした気持ちになれるかもしれません。

本校の今年度の目標の一つは「できない理由を考えるのではなく、どうすればできるかを考える」です。「面倒くさい」ことをひとつひとつやっつけて、明日からの生活を充実させ、それぞれの目標を達成するために頑張ってください。

夏休みも、変えることのできる「将来」に向け、一生懸命、後悔なく生きていきましょう。

令和7年7月18日（金）
校長 島崎 康一